

## IAUD Newsletter vol.9 第 4 号(2016 年 7 月号)

1.余暇のUDPJオリジナルCM字幕上映会開催報告	1
2.IAUD 協賛「HCD-Net フォーラム 2016」参加報告	6
3.第 11 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」参加者募集のご案内	7
4.IAUD アワード 2016 募集中のご案内	8
5.第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋開催のご案内	8
6.IAUD 7 月の予定	9

### より豊かな CM 字幕表現の研究へ

#### 余暇の UDPJ オリジナル CM 字幕上映会開催報告

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇の UD プロジェクト(以下余暇 UDPJ)は、2015 年度に東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科小池情報デザイン研究室の協力を得て、オリジナル CM 字幕のコンテンツを制作しました。

5 月 24 日(火)には、完成したオリジナル CM 字幕の上映会を IAUD サロン(東京・八丁堀)で開催し、コンテンツ制作に協力いただいた東京都市大学の学生や CM 字幕推進関係者、ユーザー、余暇 UDPJ メンバーや OB など 15 名が参加しました。

上映会の後には参加者による意見交換が行われ、オリジナル CM 字幕の感想やテレビ CM 字幕普及に向けての課題など、活発な意見交換がなされました。

今号の Newsletter では、当日の様子を余暇 UDPJ メンバーの土屋亮介氏が報告します。



オリジナル CM 字幕上映会 会場の様子

### CM 字幕オリジナルコンテンツ制作へ

余暇 UDPJ ではこれまでの CM 字幕普及に向けた取り組みの中で、CM 字幕素材を上映する場合は広告主より素材をお借りしてきました。しかし、権利関係などの制約上、難しい場合もありました。

そこで余暇 UDPJ では、「字幕付き CM を使ったワークショップを開催したい」「字幕化が難しいセリフなどの研究素材として CM がほしい」「自由な字幕表現の研究用素材として CM がほしい」などの理由より、オリジナル CM 字幕が作れないか検討してきましたが、費用や機材などの理由で断念してきました。

そんな中、2015 年度には木暮毅夫部長のご紹介で、東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科小池情報デザイン研究室の皆さまのご協力が得られることになり、コンテンツ制作が動き出しました。

余暇 UDPJ メンバーと東京都市大学の学生 4 名と何回も打合せを重ね、CM 字幕サンプルと



制作した仮想清涼飲料水「Su-to」CM

して最適なストーリーを作り、徐々に完成度を上げてきました。

今回制作したのは、仮想清涼飲料水「Su-to(スーツ)」CM の以下の 3 パターンです。

- ①字幕なし
- ②既存字幕(現在の放送ルールに沿った字幕)あり
- ③オリジナル字幕(放送ルールにとられない自由な表現での字幕)あり

### CM 字幕の第一人者やユーザーも参加

上映会には、コンテンツを制作した余暇 UDPJ メンバーと東京都市大学の学生のほか、電通ダイバーシティラボで長年 CM 字幕を推進されてきた方や、CM の字幕を制作する株式会社デジタルエッグの方など CM 字幕推進関係者や、NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長であるろう者の方にもご参加いただきました。

まずは松森果林主査より、CM 字幕に対する余暇 UDPJ のこれまでの取り組みの紹介とオリジナル CM 字幕コンテンツを作るに至った背景の説明がありました。

その後、CM 字幕コンテンツ仮想清涼飲料水「Su-to」の上映を行いました。

上映の順番は、①字幕なし(音を消して上映)②既存字幕あり(音を消して上映)③既存字幕あり(音を出して上映)④オリジナル字幕あり(音を出して上映)です。

一通り映像を見た後、参加者に率直な意見や感想を伺いました。

参加者から一通り意見が出たところで、再度オリジナル字幕を上映しました。その後、全員で意見交換を行いました。



熱心に鑑賞する参加者

### 上映した CM 字幕コンテンツの画面例



既存字幕の画面



オリジナル字幕例①  
 バックに流れる音楽はスペアナ風。喉が鳴る雰囲気はアニメーションで表現



オリジナル字幕例②  
 掛け声は強調。笛の長くなる雰囲気もアニメーションで表現

### 上映後の参加者から意見

#### 【生活者(一般参加者、余暇 UDPJ)から】

- ・オリジナル字幕はとても良かった。一つの作品のよう。CMの新しい表現だと思った。
- ・既存字幕の「きゅきゅ」は最初分からなかったが、オリジナル字幕を見て靴の音だと分かった。
- ・オリジナル字幕は話している順番に字幕が出るので、言葉のキャッチボールが分かりやすかった。
- ・「スーツと」を出演者ではなく、別の人が言っていることが理解できた。
- ・アニメーション表現は分かりやすい。
- ・ボールが弾む音は、もっと派手に分かりやすく工夫できるのでは。

- ・心の中の言葉の表現はカッコでくると良い。
- ・目が悪いので、絵で表現しているのは良かった。
- ・擬音の表現が字幕で分かるのは良かった。
- ・「字幕だけ」「他の情報」など自分で選べると良い。

#### 【東京都市大学学生から】

- ・心の声は字幕がないと分からないように入れた。
- ・色々な音で、字幕で表現するのに苦労した。
- ・なるべく複雑な表現にしないようにした。
- ・少しでも音を感じてほしいと思いながら作った。
- ・色々な人に過不足なく伝える方法を考えたかった。
- ・「間のとり方」など表現が難しいものを研究したかった。



制作に協力いただいた東京都市大学の学生

#### 【CM 字幕制作者(電通ダイバーシティラボ、(株)デジタルエッグ)から】

- ・音無し、字幕無しでも大体のストーリーは分かってしまった。
- ・最近では追手門大学や早稲田大学など、CM 字幕を研究しているところが増えてきた。
- ・CM に字幕をつける理由はあくまで「情報保障」で、情報に過不足があってはいけない。その意味で最後のオリジナル字幕は過剰。
- ・既存字幕では違う人が話す時はかっこを付けて、話している人が誰か分かるようにすると良い。
- ・うなだれるシーンでの「ため息」はぜひ字幕化してほしかった。
- ・最後の商品のシーンで、商品名を呼ぶ決めのフレーズも字幕が必要。テロップだけでは不足。
- ・CM を作る人は CM を見て商品の恋人になって欲しい、と思って作っている。
- ・新しい時代の字幕表現を見据えて進めてほしい。(4K、8K テレビ放送になるとテレビのシステムも変わってくる)
- ・我々は字幕を付与する業務をしている。素材はクライアントからくるので、字幕を入れる場所に苦労する。
- ・「きゅきゅ」(靴の音)など、ト書きまで入れるとどんどん文字が増えてしまう。
- ・字幕表示は 2 秒間出さないといけないので、タイミングが難しい
- ・優先させる情報を選ばざるをえない場合もある。
- ・オリジナル字幕は面白かった。
- ・字幕は本来、世代間で作り分けるべき。年齢にあった字幕を選べるとよい。
- ・オリジナル字幕は今の制約ではできない表現なので面白かった
- ・既存字幕の改善ポイントは色々あった。ト書きが必要な場面や色分けなどもあるとよかった。

#### オリジナル字幕再上映後の参加者からの意見

- ・背景のスペアナ風の表現は音楽の感じを表現したかった。(学生)
- ・今の字幕だと、音楽は音符マークや曲名を入れる程度の表現しかしていない。(制作者)
- ・楽しいシーンから怖いシーンへの切り替えを音楽で表現している場合は、説明(音がちぐはぐ、など)を入れることもある。(制作者)

- ・(字幕関連の)情報過多だと、発達障害の人には理解が無理な場合もある。字幕表現を切り替えられるのが良い。(生活者)
- ・オリジナル字幕表現の発想は、文字だけだと字幕が多くなってしまい画面の邪魔になるので、絵で表現しようと考えた。しかし、絵が多くなるとCM そのものを邪魔してしまう危険があり、バランスが難しい。(学生)
- ・CM 映像作りと字幕作りは切り離して作業した。字幕を入れる場所に苦労したこともあった。(学生)
- ・CM を作る時は字幕の入る位置を考慮して作ってほしい。(生活者)
- ・まず字幕が付いていない状態で完成させなければいけないので、字幕を考慮した映像作りは無理。(制作者)
- ・CM に字幕を付けることは(誰もがCM を楽しめるという意味では)通過点。目の不自由な人にも伝わることも考えなくては。(制作者)
- ・スペアナ風音楽表現はやりすぎ。効果音は音符マークくらいで良い。現在の規格内で音符マークを点滅させることもできるが、今のところ使っていない。(制作者)
- ・テレビの音を振動に変えて伝える、ということもできるようになっている。(制作者)
- ・今回はオリジナル字幕に注力すぎて、今の字幕でどこまで表現できるか、といった点の追求が不足だった。(学生)
- ・今回 CM 字幕をつくったのだから、どこかで経緯を報告してみてもどうか。(制作者)
- ・CM 研究会などは多くあるので、そのCM に字幕をつけさせてもらおう、ということも可能だと思う。(制作者)
- ・ここ数年、追手門大学の福島先生や早稲田大学院の嶋田先生、筑波技大の学生の卒論など、CM 字幕をテーマとした研究が増えている。しかし、研究のために映像素材を作った人は今回が初めてなので、社会に発信して欲しい。(制作者)

### 豊かな字幕表現の研究につなげる

意見交換の後、木暮部会長が全体を通しての感想として、「字幕を付けていく過程で、情報を誰に対しても伝える難しさを学生の皆さんに感じてほしかった。今回は学生と余暇 UDPJ メンバー双方にとって良い経験になったと思う」と述べました。

上映会終了後は懇親会を行い、親睦を深めました。

学生の皆さんとCM 字幕作りに取り組む、という試みは、双方にとって試行錯誤の繰り返しでした。

余暇 UDPJ メンバーも学生の皆さんもCM 作りにはもちろん素人で、当初の予想より時間がかかりましたが、学生の皆さんは最後まで我々の要望を聞き入れてくれて、本当に良いコンテンツが出来上がったと思います。

また、上映会ではCM 字幕制作のプロの方たちに忌憚のない意見を伺うことができ、またとない貴重な機会となりました。

今後はワークショップ等の開催を通して、余暇 UDPJ メンバーと学生双方で活用し、CM 字幕の普及や豊かな字幕表現の研究につなげていきたいと思っております。(了)



和やかに行われた親睦会

## 人を優先したモノづくりの更なるビジネスとの連携へ IAUD 協賛「HCD-Net フォーラム 2016」参加報告

特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構主催の「HCD-Net フォーラム 2016」が 6 月 10 日(金)と 11 日(土)、東海大学高輪キャンパス(東京・高輪)で開催され、IAUD も協賛団体として参加しました。

当日の様子を、初日の基調講演および基調パネルディスカッションを聴講した IAUD 副運営委員長西川 昌宏氏が報告します。



「HCD-Net フォーラム 2016」会場の様子

### テーマは「HCD のビジネス連携、社会連携」

人間中心設計推進機構は、機器やシステム、サービスの開発に「人間中心設計(HCD)」を導入定着させることで、経済の活性化に寄与することを目的とする特定非営利活動法人です。

活動開始から 10 年を過ぎ、より広く産業界に普及し、様々なビジネス領域からの期待に応えていくことが重要という方針より、今年度の HCD-Net フォーラムの全体テーマを「HCD のビジネス連携、社会連携」として、基調講演やセッション、研究発表会が実施されました。

開会にあたり、HCD-Net フォーラム 2016 実行委員長の HCD-Net 理事・河野泉氏(NEC)から、「このフォーラムを通して、さらなる HCD のあり方、優れたユーザー体験やサービスのあり方を皆さまと共に考えていきたい」という挨拶がありました。

### 基調講演「イノベーションを生み出し続ける『生態系』をデザインする」

田村 大氏((株)リ・パブリック 共同代表)

ビジネス・エスノグラフィのパイオニアであり、東京大学 i.school 創設にご尽力されたご経験を通して、イノベーションを続々と生み出す「シリアル・イノベーター」を育成するための組織デザインについてお話しされました。

社内の基準ではなく社外の基準を知り、外で仕入れたアイデアや素材を社内に持ち込むプロセスが重要であることを強調されていました。

### パネルディスカッション 1「新しいビジネス領域(フィンテック)における HCD」

関口 聡介氏(freee(株)、UX ディレクター)

ポール チャップマン氏(マネーツリー(株)代表取締役、ファウンダー)

テクノロジーの進化や規制緩和などの影響を受けて、IT 技術を使った新たな金融サービス「フィンテック(fintech)」と呼ばれる領域が注目を集めています。

その中でも、日本国内で大きな成長を遂げているフィンテック提供企業のキーパーソンお二人に語って頂きました。

「使ってもらえる」「愛される」サービスをどのように発想・デザインすべきかについて、「ユーザー視点で考える」「専門性をなくすこと」「ユニヴァーサルであること」などの意見が交わされました。

## パネルディスカッション 2「イノベーションのためのマネジメントや組織(HCD やデザイン思考を活用して)」

岩佐 浩徳氏((株)リクルートテクノロジーズ、リクルートキャリア執行役員)

小島 健嗣氏(富士フイルム(株)イノベーション戦略企画部シニアエキスパート、  
Open Innovation Hub 館長)

藤川 修氏(NEC 事業イノベーション戦略本部長)

イノベーション、新事業創造などをキーワードに、企業の取り組みを紹介し、HCD をどう取り込んでいくかという観点でのディスカッションが行われました。

リクルート・岩佐氏からは、リクルートの分社化に伴う事業・組織改革から、HCD 専門家の人材育成や交流の取り組みなど、社内の連携事例が紹介されました。

富士フイルム・小島氏からは、コア事業だった写真フィルムの大幅縮小による全社の構造改革とその対応としてのヘルスケアやフラットパネル材料など、新しい事業の立上げの必要性や、そのための社外との連携、技術提供型オープンイノベーションの実践と「場」づくりについて紹介されました。

NEC・藤川氏からは、NEC で全社的に進めている新規事業創出活動や事例を通して、大企業でイノベーションを起こすことの課題や対策などが紹介されました。

パネルディスカッションの共通認識としては、組織横断視点の必要性、変わっていくという意思やコミュニケーションの重要性、それらを支えるデザイン手法の有効性があげられました。



パネルディスカッション 2 の様子

### 今後も HCD-Net と連携へ

その後、HCD ベストプラクティスアワード 2016 表彰式が行われ、初日のプログラムは終了しました。

UD の実現には、人間中心設計が必須であることより、HCD-Net と連携し、研究や活動成果を共有させて頂くことは大変有意義であり、今後も継続していく必要性を感じました。(了)

## UD を生活者と共に考え、デザインする

### 「第 11 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」参加者募集のご案内

ワークショップ委員会は 9 月 1 日(木)から 3 日(土)の 3 日間、芝浦工業大学(東京・芝浦)にて、「第 11 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」を実施します。

今回のテーマは「街とみんなのコミュニケーションをデザインする」。2020 年のオリンピック・パラリンピックを見据えた生活に密着した街の暮らしをデザインし、最終日にはプレゼンテーションを行います。

現在、参加者を募集しております。詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1607/05-180000.php>



昨年の 48 時間デザインマラソン  
プレゼンテーションの様子



IAUD  
AWARD

## 一人でも多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現を推進 「IAUD アワード 2016」募集中のご案内

IAUD は、UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2016」を実施いたします。

今回もUDにおいて一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与し、「IAUD アワード」マークを UD の普及啓発のために使用できます。

また、12 月に開催される国際会議内で表彰式及びプレゼンテーションを実施します。

第 1 次審査の応募締め切りは 8 月 16 日(火)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD アワード 2016」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1604/22-120000.php>



IAUD アワード 2015 表彰式の様子  
(愛知・名古屋学芸大学)



## テーマは「UD による共有価値の創造」 「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催のご案内

IAUD は、「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」を 12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)において開催します。

今回の会議テーマ「ユニヴァーサルデザインによる共有価値の創造」のもと、国内外の参加者の活発な意見交換と相互交流を通してより質の高い UD 社会の実現をめざします。

どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.ud2016.net/index.jp.html>



第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京  
会場の様子(東京・お台場)

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	5	6	7 15:00～ メディアの UDPJ @CUDO	8 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	9	10
11	12	13	14 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	15 15:30～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	16	17
18 海の日	19	20	21	22 10:40～ 余暇の UDPJ @デジタルエッグ 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	23	24
25	26 14:00～ 移動空間 PJ @IAUD サロン 15:00～ 住空間 PJ @積水ハウス	27	28 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	29 第7回国際応用 人間工学会議 ／第1回インク ルーシヴデザイ ン国際会議 @米国フロリダ 13:30～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	30	31

次号は8月上旬発行予定

特集:手話用語 SWG「防災体験学習東京直下72hツアー」見学及びボディランゲージ案検証報告ほか

**無断転載禁止**

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)